

不動産登記法 登記手續 所有権以外ノ権利ニ關スル登記手續

審ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二十八條 未登記ノ不動産ノ所有権以外ノ権利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ権利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百二十九條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何権利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有権ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百十條 未登記ノ不動産ノ所有権以外ノ権利ヲ目的トスル権利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ権利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第三百十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何権利ヲ目的トスル何権利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有権ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有権以外ノ権利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ権利者ノ氏名、住所及ヒ何権利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何権利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百十二條 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有権以外ノ権利ヲ目的トスル権利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ権利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第三百十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有権以外ノ権利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ権利者ノ氏名、住所及ヒ何権利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何権利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百十四條 前四條ノ規定ハ所有権以外ノ権利又ハ其権利ヲ目的トスル権利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有権以外ノ権利若クハ其権利ヲ目的トスル権利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有権以外ノ権利ヲ目的トスル権利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其権利ヲ證スルコトヲ要セス

第三百十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ヲ

不動産登記法 登記手續 所有権以外ノ権利ニ關スル登記手續 三七三

新築スヘキ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲スニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク所附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第三百六條及ヒ第三百七條ノ適用ヲ妨ケス
附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
第四百十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ建物ノ表示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産工事ノ先取特權ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第四節 抹消ニ關スル登記手續

第四百十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

不動産登記法 登記手續 抹消ニ關スル登記手續 三七六

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百二十二條ノ二 遺留財産ノ廢止ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク遺留財産ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス遺留財産ノ相續人ナキトキ亦同シ(四十四年法律第十二號ヲ以テ追加)

第四百二十三條 華族世襲財産ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク華族世襲財産ノ創設ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百二十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判ヲ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百四十七條 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹

不動産登記法 登記手續 抹消ニ關スル登記手續 三七七

消スルコトヲ要ス

第四百十九條 第三百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

第五章 抗告

第五百十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第五百十二條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其證據ト爲スコトヲ得ス

第五百十三條 登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日内ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關

係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第五百十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

第五百十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第五百十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五百十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトナリ由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十四條乃至第五百十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第五百十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟

不動産登記法 附則

三八〇

事件手続法ノ規定ヲ準用ス

附則

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三十二年勅令第三百三十四號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行ス）

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第四百十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル

登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

●不動産登記法施行細則

（明治三十二年五月十二日
司法省令第十一號）

不動産登記法施行細則左ノ通相定ム

不動産登記法施行細則

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ建物登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ノ二種トス
共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

三八一

スルコトヲ得
共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出ヲ附ス
ヘシ

第三條 土地共同人名簿ハ附錄第三號雛形ニ依リ建物共同人名簿ハ附錄第四號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ但區裁判所出張所ノ帳簿ハ管轄區裁判所ヨリ之ヲ請求スヘシ豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第五條 登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記見出帳ハ附錄第五號雛形ニ依リ土地分合登記見出帳ハ附錄第六號雛形ニ依リ建物登記見出帳ハ附錄第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記

用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス毎ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部十百千ノ數ヲ冠スルモニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ但土地カ合併ニ因リ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ

第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ敷地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ敷地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲモ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

三八四

第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ抹スヘシ

第十一條 受附帳ハ附錄第八號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第十二條 受附番號ハ一年毎ニ更新スヘシ

第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一 謄本抄本交付帳

二 申請書囑託書通知書附屬書類綴込帳（三十五年司法省令第十三號ヲ以テ改正）

三 圖面綴込帳

四 受領證原符元帳

五 各種通知簿

六 登記立會調書綴込帳

七 決定原本綴込帳

八 登記簿謄本綴込帳

九 土地墾帳謄本

十 土地異動通知書綴込帳

十一 土地登記濟通知簿

十二 抗告書類綴込帳

十三 本登記濟證交付帳

十四 印鑑簿

十五 印鑑證明書綴込帳（同上省令ヲ以テ追加）

十六 還納受領證綴込帳（同上）

第十四條ノ二 前條第一號、第二號、第四條乃至第八號、第十號乃至第十三號、第十五號及ヒ第十六號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ（同上）

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

三八五

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

三八六

第十五條 申請書、囑託書並ニ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴スヘシ
第十六條 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十七條 不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面二通ノ内二通ハ登記所ニ之ヲ保存スヘシ

第十八條 第十四條第五號ノ通知簿ニハ不動産登記法第六十一條、第六十二條、第七十五條第一項、第一百十四條第二項、第一百二十六條第二項、第一百五十三條第二項及ヒ本令第六十二條第一項、第六十三條第一項、第六十九條ノ通知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ（三十五年司法省令第十三號ヲ以テ改正）

第十九條 不動産登記法第十一條第二項ノ規定ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ受ケタル通知書ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第二十條 專變ヲ避クル爲メ登記簿又ハ其附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキ

ハ登記官吏ハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十一條 裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令又ハ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其關係アル部分ニ限り之ヲ送付スヘシ

第二十二條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク其事由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且回復登記期間ヲ豫定シ地方裁判所長ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

地方裁判所長カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後司法大臣ニ具申ヲ爲スヘシ

第二十三條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ詳細其狀況ヲ取調ヘ且處分方法ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申報又ハ具申ヲ爲スヘシ

第二十四條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作り地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ但區裁判所出張所カ認可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

不動産登記法施行細則 登記ニ關スル帳簿

三八七

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長市、區、町村長ノキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 印鑑ハ附錄第九號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十七條 印鑑簿調製ノ様式及ヒ貼附ノ方法等ハ地方裁判所長之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及ヒ公署ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求ス

ル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

四 年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十二條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其番號ヲモ記載スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十四條 登記官吏カ第二十九條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ美濃郡紙ヲ用ユヘシ

第三十六條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閲覧ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十七條ノ二、土地臺帳謄本及ヒ印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

受附帳、登記立會調書綴込帳、登記簿謄本綴込帳及ヒ土地異動通知書綴込帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ(三十五年司法省令第十三號ヲ以テ本條追加)

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳及ヒ印鑑證明書類綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

謄本抄本交付帳、受領證原符元帳、各種通知簿、土地登記濟通知簿、本登記簿暨交付帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第二章 登記申請ノ手續

第三十八條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但登録稅法第二條第一項第一號乃至第十七號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一入ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサ
不動産登記法施行細則 登記申請ノ手續 三九一

ルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十一條 不動産力數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十二條 不動産登記法第二百二十八條又ハ第三百十條ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産力建物ナルトキハ申請書ニ圖面ヲ添附スヘシ

第四十三條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號、第二號並ニ第三十七條ニ掲ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ

圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若シ登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引、朱字ト爲スヘシ

圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十四條 登記原因及ヒ登記ノ目的方同一ニシテ且登録稅法第二條第一項第十號、第十二號乃至第十六號、第二十一號但書及ヒ第二十二號但書ノ規定ニ依リ登

録稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ金額ヲ納付スヘシ(三十二年司法省令第二十五號ヲ以テ本項改正)

前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應ジ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但ニ通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第四十五條 不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記濟證カ滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

- 一 登記ヲ受ケヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的
 - 二 登記義務者ノ人選ナキコト
 - 三 保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記
- 不動産登記法施行細則 登記申請ノ手續 三九三

不動産登記法施行細則 登記手續

三九四

記番號

四 保證人ノ住所、年齢

五 年月日

第四十六條ノ二 帝國ノ臣民又ハ法人カ明治三十四年勅令第七十九號第一條第二項ニ依リ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テ所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ永代借地券ノ抹消ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ
(三十四年司法省令第十七號ヲ以テ追加)

第三章 登記手續

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第五十條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第五十一條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第五十二條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

不動産登記法施行細則 登記手續

三九五

不動産登記法施行細則 登記手續

三九六

第五十四條 共同人名簿ニ登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ記載シタル登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十八條 登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記濟證ニ不動産登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條 土地臺帳所管廳ヨリ土地ノ異動ニ關スル通知アリタル場合ニ於テ其土地カ既登記ナルトキハ見出帳中相當欄ニ其通知書ヲ編綴セル土地異動通知書
不動産登記法施行細則 登記手續
三九七

不動産登記法施行細則 登記手續

三九八

發込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記入シ其土地カ未登記ナルトキハ土地臺帳謄本ノ別冊ニ其土地ニ關スル事項ヲ記載シ備考欄ニ土地臺帳謄本原簿第何冊第何丁第何行ヨリ移シタル旨ヲ記入シ土地臺帳謄本原簿ノ備考欄ニハ別冊第何冊第何丁第何行ニ移シタル旨ヲ記入スヘシ

異動ノ通知ヲ受ケタル既登記ノ土地ニ付キ其異動ニ關シ變更登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中其異動ニ關シ土地異動通知書ノ冊數、丁數欄ニ爲シタル記入ヲ抹スヘシ

第六十二條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其通知事項ヲ記入スヘシ

第六十三條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區

事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十四條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ

登記官吏捺印シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ抹スヘシ

第六十五條 不動産登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合

ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條 不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記濟證ヲ交付スルトキ

之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十七條 不動産登記法第十二條第二項ノ調査ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 申請人ノ氏名、住所

二 申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等内ノ親族ナルコト

三 登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的

不動産登記法施行細則 登記手續

三九九

不動産登記法施行細則 登記手續

四〇〇

- 四 申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號
- 五 立會人ノ氏名、住所及ヒ年齢
- 六 立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

第六十八條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租納期開始前十五日内ハ其都度通知ヲ爲スヘシ(三十七年司法省令第十八號ヲ以テ但書改正)

第六十九條 登記官吏カ不動産登記法第二百二十九條、第三百一一條又ハ第三百三三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但第三百三十一條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第七十條 不動産登記法第六十一條、第六十三條、第七十五條第一項及ヒ前條ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

第七十一條ノ二 第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ永代借地登記簿ノ用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記力未タ抹消ニ係ラサルトキハ登記官吏ハ普通登記簿ニ所有權ノ登記ヲ爲シタル上他ノ權利ニ關スル登記ヲ移スヘシ(三十四年司法省令第十七號ヲ以テ追加)

第七十一條ノ三 前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキ又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキハ登記不動産登記法施行細則 登記手續

四〇一

用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

附則

第七十二條 不動産登記法第六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、新登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條 不動産登記法第六十三條ノ登記ヲ爲ササル不動産ニ付キ其滅失又ハ其不動産ニ關スル權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ(三十二年司法省令第五十四號ヲ以テ改正)

第七十四條 受附番號ハ明治三十二年分ニ限り六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月

三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條 舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第七十六條 明治二十六年^三司法省令第三號ニ依リ既ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

(附録様式略ス)

●一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿調製方

(明治二十九年七月九日
司法省令第十七號)

一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ハ附録第一號様形ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ得

前項ノ町村又ハ其大字ハ地方裁判所長ノ具申ニ因リ司法大臣之ヲ定ム

第二條 前條ノ土地登記簿ヲ備ヘタル登記所ニハ地上權登記索引簿ヲ備フルコトヲ得

一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿調製方

一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿調製方

四〇四

地上權登記索引簿ハ附録第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(附録様式略ス)

○司法省告示 明治三十九年八月十八日 第二十五號

本年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ村及ヒ大字ヲ指定ス

一 奈良縣大和國吉野郡四郷村、小川村、川上村、十津川村大字川上、折立、山手、谷、高

上津川、天川村大字天川、川合、中、高見村大字水津、平野、杉谷、谷尾、野迫川村大字北股、北

塔村大字本、南芳野村大字才谷、長谷、中莊村大字五佐谷、

一 縣同國北葛城郡警城村大字竹

一 同縣同國南葛城郡忍海村大字山

○司法省告示 明治四十一年五月二十一日 第二十八號

明治三十九年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ大字ヲ指定ス

一 奈良縣大和國宇陀郡御杖村大字土屋、室生村大字田口、曾爾村大字小島

一 同縣同國吉野郡十津川村大字谷垣内、小川

● 不動産及商業登記簿謄本抄本等ノ手数料

(明治三十二年五月十三日 司法省令第十四號)

土地登記簿、建物登記簿、工場財團登記簿、鐵業財團登記簿、立木登記簿及ヒ商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料左ノ通相定ム(三十八年司法省令第二十號四十二年同第六號ヲ以テ本令中改正)

第一條 不動産登記法第二十一條又ハ非訟事件手續法第四百十二條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手数料金十錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條 不動産登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料金十錢ヲ納ムヘシ

第三條 非訟事件手續法第四百十三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手数料金十錢ヲ納ムヘシ
不動産及商業登記簿謄本抄本等ノ手数料 四〇五

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 四〇六

第四條 明治三十二年司法省令第十三號第二十七條ノ規定ニ依リ商業登記ニ付キ

登記濟證ノ交付ヲ請求スル者ハ手数料金五錢ヲ納ムヘシ

第五條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 第一條乃至第三條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以

テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

●各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

(明治三十五年一月十八日)
勅令 第五號

朕各省ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定

シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

○内務省令 明治三十五年四月十日
第十三號

當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左ノ官吏ヲ指定ス(三十七年内務省
令第九號三十八年同第三號第十九號四十年同第十九號ヲ以テ本令中改正)

北海道廳長官

樺太廳長官

府縣知事

神宮大宮司

本省總務局會計課長

本省衛生局長

警察監獄學校幹事

内務省土木出張所長

衛生試驗所長

血清藥院長

痘苗製造所長

傳染病研究所長

北海道廳支廳長

樺太廳支廳長

島司

郡長

○大藏省令 明治三十五年五月二十七日
第十號

當省ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス(三十五大藏省
令第三十三號三十六年同第三十六號三十七年同第二十號第三十五號三十八年同第
二十三號第四十號三十九年同第二十七號四十年同第四十五號四十年同第四十九
號四十二年同第二十二號四十二年同第二十五號同第四十號四十四年同第十六號第
十九號ヲ以テ本令中改正)

警視總監 北海道廳長官

府縣知事

大臣官房會計課長 大臣官房營繕課長

臨時煙草製造準備局作業部長

臨時煙草製造準備局建築部長

造幣局長 稅關

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

四〇七

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 四〇八

- 長 稅務監督局長 稅務署長 大藏省臨時建築部長 鐵道院總裁 鐵道院建設部長 鐵道管理局長 鐵道院出張所長 鐵道院建設事務所長 鐵道院市街線建築事務所長 樺太廳長官 樺太廳支廳長 臨時沖繩縣土地整理事務局長官 專賣局長官 專賣局製造所長 印刷局長 專賣支局長 專賣局試驗場長 專賣局伏見工場長 釀造試驗所長

○陸軍省令 明治三十五年二月五日 第四號

本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ登記囑託ニ關シ左ノ通指定ス（三十七年陸軍省令第三十一號四十年同第七號四十三年同第四號ヲ以テ本令中改正）

- 師團經理部長 臺灣陸軍經理部長 臨時陸軍建築部部長並同支部長
- 砲兵工廠提理 築城部部長並同支部部長
- 千住製絨所長 陸地測量部長 要塞司令部及對馬警備隊司令官
- 成所長及種馬所長 馬政長官 種馬牧場長、種馬育成所長

○海軍省令 明治三十五年一月二十二日 第三號

本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ東京府下ニ在テハ海軍省經理局長其ノ他ハ所管鎮守府經理部長ヲ指定ス

○司法省令 明治三十六年五月三十日 第十八號

當省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス

- 司法省總務局營繕課長 控訴院長（東京控訴院長ヲ除ク） 地方裁判所長

○文部省令 明治四十年十一月六日 第三十二號

當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左ノ官吏ヲ指定ス（四十一年文部省令第二十二號ヲ以テ本令中改正）

- 北海道廳長官 府縣知事 文部大臣官房會計課長
 - 帝國大學總長 東北帝國大學農科大學長 文部省直轄諸學校長
- 各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 四〇九

各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件 四一〇

○農商務省令 明治四十年五月二十一日 第十 四 號

明治三十五年三月農商務省令第四號ヲ左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（四十年農商務省令第十八號四十二年同二十四號ヲ以テ本令中改正）

當省所管ニ係ル不動産登記囑託ニ關シ本官ノ代理トシテ左ノ通指定ス

大臣官房會計課長、山林局長、製鐵所長官、特許局長、大林區署長、鑛山監督署長、農事試驗場長、工業試驗所長、生絲檢查所長、花筵檢查所長、種畜牧場長、種牛所長、蠶業講習所長、水産講習所長、糖業改良事務局長、日本大博覽會會長

○遞信省令 明治四十三年三月二十九日 第五 十 號

明治三十五年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關シ左ノ官吏ヲ指定ス

遞信省經理局長 郵便貯金局長 電信燈臺用品製造所長

航路標識管理所長 商船學校長 遞信管理局長

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十五年三月遞信省令第五號ハ之ヲ廢止ス

●債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル件

（明治三十九年六月二十二日 法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律ヲ編可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 債權者カ民法第四百二十三條ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ不動産登記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且申請書ニ同法第三十六條ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名住所若債債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル件 四一一

債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル件 四一二
權者カ法人ナルトキハ其ノ名稱並事務所及代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スル
コトヲ要ス

第二條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登記ヲ爲スニハ不動産登記法第
五十條第二項ニ依ルノ外債權者ノ氏名、住所又ハ名稱並事務所及代位原因ヲ記
載スルコトヲ要ス

第三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産登記法第六十條第一項ニ掲ケ
タル書類ヲ債權者ニ還付シ且登記濟ノ旨ヲ登記權利者ニ通知スルコトヲ要ス
不動産登記法第六十三條ノ通知ハ債權者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

● 永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十一日
法律第三十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地
權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス

永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得

地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ
於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第二條ノ二 永代借地權ノ競賣ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外民
事訴訟法及競賣法中不動産ノ競賣ニ關スル規定ヲ準用ス(四十一年法律第六十
二號ヲ以テ追加)

第二條ノ三 競賣ノ申立書ニハ永代借地券ヲ添附スヘシ申立入地券ヲ提出スルコ
ト能ハサルトキハ地方廳ノ認證アル地券ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)

永代借地權ニ關スル件

永代借地権ニ關スル件

四一四

第二條ノ四 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アルコトヲ地方廳ニ通知スヘシ(同上)

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ競賣手續中地券ニ移轉ノ記載ヲ爲スコトヲ得ス

第二條ノ五 民事訴訟法第七百條第一項又ハ競賣法第三十三條第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ競落人カ取得シタル永代借地権ノ移轉ノ記載ヲ地方廳ニ囑託スヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テ申立人ヨリ提出シタル地券アルトキハ囑託書ニ之ヲ添附スヘシ

第二條ノ六 地方廳ニ於テ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク地券ニ永代借地権ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ返還スヘシ(同上)

第二條ノ七 地方廳カ第二條ノ五ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ囑託書ニ地券ノ添附ナキトキハ地券名義人ニ對シ地券ノ提出ヲ命スヘシ(同上)

地券名義人カ地券ヲ提出シタルトキハ遲滞ナク其ノ地券ニ永代借地権ノ移轉ノ

記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ八 地券名義人カ地券ヲ提出セサルトキハ地方廳ハ競落人ニ對シ更ニ新

地券ヲ發給スヘシ(同上)

提出セサル地券ハ新地券ノ發給ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第二條ノ九 前條第一項ノ規定ニ依リ發給スヘキ地券ハ地方廳ノ記録ニ基キ原地券ノ全文ヲ掲ケテ之ヲ作成シ且競落人ノ氏名、國籍、住所、新地券發給ノ原因、其ノ日附及地方長官ノ官氏名ヲ記入シ官印ヲ押捺スヘシ(同上)

第二條ノ十 地方廳カ第二條ノ八第一項ノ規定ニ依リ新地券ヲ發給スルトキハ其ノ地券ニ永代借地権ノ移轉ノ記載ヲ爲シ遲滞ナク之ヲ裁判所ニ送付スヘシ(同上)

第二條ノ十一 地券カ第二條ノ八第二項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ舊地券名義人ニ通知シ且官報及新聞紙ヲ以テ公告スヘシ(同上)

第二條ノ十二 地方廳ニ於テ永代借地権ノ移轉ヲ地券ニ記載シタルトキハ遲滞ナ

永代借地権ニ關スル件

永代借地權ニ關スル件

四一六

ク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ(同上)
前項ノ通知書ニハ地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ十三 管轄登記所ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ移轉、競落ニ因リテ消滅シタル永代借地權上負擔登記入ノ抹消及競賣申立登記入ノ抹消ノ登記ヲ爲スヘシ(同上)

第二條ノ十四 裁判所ハ第二條ノ六ノ規定ニ依リ地券ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ第二條ノ七第二項及第二條ノ十ノ規定ニ依リ地券ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ競落人ニ交付スヘシ(同上)

第二條ノ十五 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方廳ニ通知スヘシ(同上)

第二條ノ十六 永代借地權ノ競賣ニ關スル規定ハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セ

第四條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存ス

ル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

第五條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

●永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十一日)
勅令第百七十八號

●永代借地權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

永代借地權ニ關スル件

四一七

永代借地権ニ關スル件

四一八

永代借地権ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ
謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合
ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借
地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載ス
ヘシ

第二條 永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設
ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條 登記簿ハ永代借地登記簿及^{永代借地}建物登記簿ノ二種トス

第四條 永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區
ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ
登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄
ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
甲區事項欄ニハ永代借地権ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル
事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第五條 ^{永代借地}建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ノ四區ニ分

チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示

番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

永代借地権ニ關スル件

四一九

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條 未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條 登記所ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル届出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條 明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限り本令ニ依リテ爲シタル登記

ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依リ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ
前項ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條 永代借地權ハ他ノ名稱ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條 永代借地權又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セサルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

帝國ノ臣民又ハ法人永代借地權ヲ取得シタル場合ニ
關スル件

四二二

第十二條 本令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附則

第十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

●帝國ノ臣民又ハ法人永代借地權ヲ取得シタル場合

ニ關スル件

(明治三十四年九月二十一日
勅令第三百七十九號)

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ
設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲
ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄ス
ル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受ケヘシ
前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地
ノ所有權ヲ取得ス

第二條 帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケ

タルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アル
トキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續ス

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地
權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登
記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得
スルコトヲ妨ケス

●永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル

登記取扱手續

(明治三十四年九月二十一日
司法省令第十五號)

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登 四二三
記取扱手續

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記取扱手續

四二四

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條 永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條 永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ永代借地建物登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ハ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第四條 登記ノ申請書ニ添附スル書面カ外國語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ附スヘシ

第五條 外國領事廳ノ登記ヲ登記簿ニ移スニハ其譯文ニ依ルヘシ

外國領事廳ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ニ登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第六條 明治三十四年勅令第七十九號第二條ニ依リ地方廳ヨリ永代借地券ノ抹消ノ通知アリタルトキハ登記官吏ハ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其登記用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アルトキハ表示欄ニ地券抹消ノ通知アリタル旨ヲ記載シ置キ他ノ權利ニ關スル總テノ登記ニ付キ抹消ノ登記ヲ爲シタル後又ハ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ因リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移シタル後登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第七條 前條第一項ノ通知アリタル場合ニ於テ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ其登記ヲ普通登記簿ニ移シ前登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

附則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 明治三十二年司法省令第四十一號外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス
(雛形略ス)

●同上登記簿謄本抄本閱覽手数料

同上登記簿謄本抄本閱覽手数料

四二五

永代借地券ノ抹消ニ因リ土地所有權取得ノトキ管轄
稅務署へ通知ノ件

四二六

(明治三十四年九月二十一日
司法省令第十六號)

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ノ請求
又ハ登記簿若クハ其附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年
司法省令第十四號ノ規定ヲ準用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年司法省令第四十二號ハ之ヲ廢止ス

●永代借地券ノ抹消ニ因リ土地所有權取得ノトキ管

轄稅務署へ通知ノ件 (明治三十四年九月二十五日
內務省令第二十四號)

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得
シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹
消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ土地所在地
ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

●同上ノ通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳ニ登録ノ件

(明治三十四年九月二十五日
大藏省訓令第三十四號)

稅務管理局 函館札幌根室那
霸四局ヲ除ク

明治三十四年內務省令第二十四號ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ稅務署ハ其ノ土地
ニ付土地臺帳登録ノ手續ヲ爲スヘシ

同上ノ通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳ニ登録ノ件 四二七

● 戶籍法

(明治三十一年六月二十一日
法律 第十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戶籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
戶籍法

第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

第一條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍吏之ヲ管掌シ戶籍役場ニ於テ之ヲ
取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戶籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充
ツルコトヲ得

第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付
テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ
戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ
者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ
在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ

戶籍法 戶籍吏及ヒ戶籍役場

職務ヲ行フ

第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 戶籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戶籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ

各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戶籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戶籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戶籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戶籍役場ニ保存スルコトヲ要ス登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避ケル爲メニスル場合ヲ除ケ外之ヲ戶籍役場外ニ

持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戸籍吏カ閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ

二 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ

三 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

四 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

五 戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

六 戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條 戸籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

戶籍法 登記手續

四三四

第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス
一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコト

ヲ要ス

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

戶籍法 登記手續

四三五

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲ササリシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス
- 二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、氏名
- 三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用井スシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者

ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所

ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戸籍吏ハ毎年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用井盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

戸籍法 身分ニ關スル届出 總則

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戶籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戶籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地方戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戶籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戶籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戶籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ

戶籍法 身分ニ關スル届出 總則

準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戶籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三個月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一個月内ニ本籍地ノ戶籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算スル裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戶籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戶籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戶籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ

戶籍法 身分ニ關スル届出 總則

戶籍法 身分ニ關スル届出 出生

四四六

定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戶籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

第六十四條 戶籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戶籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十六條 届出入ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 出生

四四七

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキト

キハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十四條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戶籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況竝ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號竝ニ場所

戶籍法 身分ニ關スル届出 出生

及ヒ引渡ノ年月日ヲ調査ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス
引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコト
ヲ要ス

第二項ノ調査ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八
條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタル
トキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船
者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載
シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スル
コトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十
四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要

ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海
日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三个
月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戶籍吏ニ
發送スルコトヲ要ス

第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一
个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲
シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 嫡出子否認 私生子認知 四五一

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
 - 二 出生ノ年月日
 - 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
 - 四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添へ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添へ前三條ノ規定ニ從

ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
 - 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 養子縁組

四五四

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ

登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 養子離縁

第九十五條 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

戶籍法 身分ニ關スル届出 養子離縁

四五五

- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名
- 七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準

用ス

第一百條 第五十八條ノ規定ハ離縁ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 婚姻

第一百二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
- 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨
- 六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 婚姻

四五八

第三百三條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第三百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢察力訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢察ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第三百七條 第二百二條及ヒ第二百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚

第三百九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ年月日
- 五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第一百十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届

戶籍法 身分ニ關スル届出 離婚

四五九

書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第百十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條 第百九條及ヒ第百十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九節 後見

第百十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
- 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 三 被後見人カ家族ナルトキハ月主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
- 五 後見人就職ノ年月日

第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第百十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
 - 二 就職ノ年月日
 - 三 任務終了ノ原因及ヒ年月日
- 後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 後見 四六一

スコトヲ要ス

第十節 隱居

第百十九條 隱居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 隱居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
- 三 隱居ノ原因

第百二十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百二十一條 隱居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十二條 隱居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

ス

第百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節 失踪

第百二十三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 失踪者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
- 三 失踪者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト失踪者トノ續柄

第百二十四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節 死亡

第百二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢察書又ハ警察官ノ檢視證書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 失踪 死亡

戶籍法 身分ニ關スル届出 死亡

四六四

- 一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
 - 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
 - 三 死亡者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト死亡者トノ続柄
- 前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二百二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戶主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二百二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク第二百二十五條ニ掲

ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戶籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取入ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢察書ヲ添フルコトヲ要ス

第二百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第二百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三百十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタル
戶籍法 身分ニ關スル届出 死亡 四六五

戶籍法 身分ニ關スル届出 家督相續

四六六

トキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戶籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戶籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知りタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ニ代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第三百三十三條 家督相續ニ因リテ戶主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一 家督相續ノ原因及ヒ戶主ト爲リタル年月日

二 前戶主ノ名及ヒ前戶主ト家督相續人トノ續柄

家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三个月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三百三十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且前ニ爲シタル家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百三十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 相續開始ノ年月日

二 家督相續人ノ胎兒ナルコト

三 前戶主ノ名及ヒ前戶主ト家督相續人トノ續柄

第三百三十三條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 家督相續

四六七

戶籍法 身分ニ關スル届出 推定家督相續人ノ廢除 四六八

第三百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一个月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第三百三十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 廢除ノ原因

三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第三百三十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ

爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

戶籍法 身分ニ關スル届出 家督相續人ノ指定 四六九

戶籍法 身分ニ關スル届出 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶 四七〇

二 指定ノ年月日

第四百十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十五條 家督相續人ノ指定カ其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第四百十六條 民法第七百三十五條第一項若クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係

三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨

四 入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第四百十七條 民法第七百三十五條第一項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第四百十八條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 離籍セララルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 離籍ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

三 離籍セララルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、
戶籍法 身分ニ關スル届出 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶 四七一

戶籍法 身分ニ關スル届出 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶 四七二
職業及ヒ其者ト離籍セラルヘキ者トノ續柄

第四百十九條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日
内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 離籍ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄
- 三 離籍ノ原因及ヒ年月日
- 四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第五百十條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具
シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業
及ヒ本籍地
- 三 復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

第五百十一條 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサ
ル者カ一家ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具
シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月
日、職業及ヒ本籍地
- 二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者
ト届出人トノ續柄

第十七節 廢家及ヒ絶家

第五百十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主
ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘ
テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍
地

戶籍法 身分ニ關スル届出 廢家及ヒ絶家 四七三

戶籍法 身分ニ關スル届出 分家及ヒ廢絶家再興 四七四

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十三條 絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ

十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 絶家ノ原因及ヒ年月日

三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

第百五十四條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ

要ス

一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ト

ノ續柄

三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業

四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

トヲ要ス

一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二 廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又

ハ戸主ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ

同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキ

ハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

戶籍法 身分ニ關スル届出 國籍ノ得喪

戶籍法 身分ニ關スル届出 國籍ノ得喪

四七六

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス
第百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍

二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍

三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

出ツルコトヲ要ス

一 國籍喪失ノ原因

二 國籍喪失ノ期日ヲ知リ得ヘキトキハ其年月日

三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

四 新ニ取得スヘキ國籍

五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト能ハサリシトキハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ之ヲ適用セス
第百六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出入ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義

戶籍法 身分ニ關スル届出 國籍ノ得喪 四七七

務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出入ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ贈本ヲ添フルコトヲ要ス

第百六十三條 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日

内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ贈本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

二 國籍回復前ニ有セシ國籍

三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日

四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ

其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

第百六十四條 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄

官廳ノ許可書ノ贈本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第百六十五條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ贈本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ月主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條 前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節 身分登記ノ變更

戶籍法 身分ニ關スル届出 身分登記ノ變更

第六十七條 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 原登記ノ件名及ヒ年月日
- 二 變更スヘキ事項

第六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 戶籍簿

第七十條 戶籍ハ戶籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第七十一條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戶籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ

其區畫ノ順序ハ戶籍吏之ヲ定ム

第七十二條 戶籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戶籍簿ノ正本ハ之ヲ戶籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス

第七十三條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戶籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戶籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第七十四條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戶籍簿並ニ戶籍ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第六章 戶籍ノ記載手續

第七十五條 戶籍ハ一月毎ニ一本ヲ作ル

第七十六條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 戶主、前戶主、及ヒ家族ノ氏名
- 二 戶主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戶主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族

戶籍法 戶籍ノ記載手續

- 一 二付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
- 二 戶主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
- 三 戶主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス
- 四 戶主並ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母トハ家族トノ續柄
- 五 戶主ト前戶主トノ續柄及ヒ家族トハ他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者トハ其者トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス
- 六 他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主トハ家族ト爲リタル者トノ續柄
- 七 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者トハ其者トノ續柄
- 八 戶主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因並ニ年月日

十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及ヒ後見人ノ就職並ニ任務終了ノ年月日

第七十七條 戶主及ヒ家族ノ氏名ヲ戶籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル

- 第一 戶主
 - 第二 戶主ノ直系尊屬
 - 第三 戶主ノ配偶者
 - 第四 戶主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
 - 第五 戶主ノ傍系親及ヒ其配偶者
 - 第六 戶主ノ親族ニ非サル者
- 直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス
- 直系尊屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム
- 前二項ノ規定ハ戶主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス

第七十八條 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十條 分家、廢絶家再與其他新家ヲ立ツハキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 復籍拒絕ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絕シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十二條 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八十三條 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八十四條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受
戸籍法 戸籍ノ記載手續 四八五

戶籍法 戶籍ノ記載手續

四八六

遷シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キ第七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戶籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第八十條第二項ノ規定ニ依リテ戶籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 戶籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戶籍ニ入ルヘキトキハ第七十七條ノ順序ニ拘ハラズ戶籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第八十七條 一月ノ全員又ハ一月内ノ一人若クハ數人ヲ戶籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ戶籍ニ記載シテ戶籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八十八條 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ他ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戶籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

第八十九條 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ新管轄ノ戶籍吏ヨリ

入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戶籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル届出ニ基キテ戶籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戶籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戶籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第九十二條 戶籍用紙中ノ一部分ヲ用井盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戶籍ニ記

ス

戶籍法 戶籍ノ記載手續

四八七

載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第百九十四條 第百七十九條及ヒ第百八十條ノ規定ニ依リテ戶籍ヲ編製シタルト

キハ戶籍吏ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スル

コトヲ要ス

第七章 戶籍ニ關スル届出

第百九十五條 戶籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戶主ヨリ左ノ諸

件ヲ具シ戶籍ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 原籍地及ヒ轉籍地

前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第百九十六條 戶籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戶主ヨ

リ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第百九十七條 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ複本籍ヲ有スル者

ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ

許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十八條 就籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ

具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ就籍スヘキ地

二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄

三 本籍ヲ有セザリシ原因

四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地

五 就籍スヘキ者カ戶主ナルトキハ其旨

六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戶主

トノ續柄

七 就籍スヘキ者カ戶主及ヒ家族ナルトキハ戶主、家族ノ別及ヒ家族ト戶主

トノ續柄

八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ其

原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト就籍スヘキ者トノ續柄

戶籍法 戶籍ニ關スル届出

戸籍法 戸籍ニ關スル届出

四九〇

前項第六號及第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ届書ニ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十九條 除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ附本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ複本籍地

二 複本籍ヲ有セル原因

三 除籍スヘキ者カ本籍ト複本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍並ニ複本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第百條 就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戸主及ヒ家族ナルトキハ前二條ノ届出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

戸主カ前二條ノ期間内ニ其届出ヲ爲ササルトキハ許可ノ裁判ヲ受ケタル者ヨリ

其届出ヲ爲スコトヲ得(四十年法律第十四號ヲ以テ本項追加)

第二百一條 第百九十八條及ヒ第百九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條 第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章 抗告

第二百三條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百六條 戸籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判

戸籍法 抗告

四九一

裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス
抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日以内ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手続法ノ規定ヲ準用ス

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十一條 期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届

出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラル
二回以上戸籍吏ノ催告ニ應セサル者亦同シ

第二百十二條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處セラル

一 正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ

二 身分登記又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百十三條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

一 正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ
二 正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若クハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

第二百十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手

續法ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ

戶籍ニ關シ詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル

附則

第二百十六條 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戶籍吏トシ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戶籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戶籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス
手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百十八條 本法ノ規定ニ依リ届出人其他ノ者ノ署名、捺印ヲ要スル場合ニ於

テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百十九條 明治三十一年十二月三十一日マテハ從前登記目錄トシテ備ヘタル帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條 登記目錄ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ明治三十一年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限り戶籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラズ登記目錄ヲ作製スルト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得

前項ノ規定ハ登記目錄ノ設ナカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リ戶籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣之ヲ定ム

戸籍法取扱手續

四九六

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其實事ヲ知ルコト能ハサルモノ又ハ從前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設ナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第二百二十二條 明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及七同年内務省令第二十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行ス）

●戸籍法取扱手續（明治三十一年七月十三日司法省訓令第五號）

控訴院 地方裁判所

區裁判所 戸籍役場

戸籍法取扱手續左ノ通相定ム

戸籍法取扱手續

第一條 身分登記簿ノ用紙ハ美濃十三行罫紙トシ其登記例ハ附錄第一號書式ノ振合ニ依ルヘシ

第二條 戸籍簿ノ用紙ハ附錄第二號様式ニ依リ其記載例ハ附錄第三號書式ノ振合ニ依ルヘシ

第三條 戸籍吏ハ毎年十月三十一日マテニ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ニ附錄第四號書式ノ請求書ヲ添ヘ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四條 市町村ノ戸籍簿ヲ二冊以上ニ分綴シタルトキハ其表紙ニ番號又ハ大字等ヲ附記スヘシ

第五條 戸籍役場ニ於テハ毎年受附帳ヲ製シ置キ身分及ヒ戸籍ニ關スル届出、報告其他ノ書類ヲ受附タル順序ニ從ヒ之ニ其件名、差出人、受附ノ年月日及ヒ番號ヲ記入スヘシ

戸籍法取扱手續

四九七

第六條 身分登記簿、戸籍簿及ヒ届書其他之ニ關スル書類ハ總テ鎖鑰アル書籍ニ藏メ其保管ヲ嚴ニシ倉庫ノ設ケアルモノハ倉庫ニ藏メ置クヘシ

第七條 身分登記簿及ヒ戸籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ戸籍吏ハ遲滞ナク其事由、年月日、帳簿ノ冊數、市町村名等ヲ詳細ニ記載シ監督區裁判所判事ニ申報スヘシ

監督區裁判所判事カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後之ヲ管轄地方裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第八條 戸籍簿ヨリ除キタル戸籍ハ一个年毎ニ編綴シテ其表紙ニ明治何年除籍簿ト記載スヘシ

第九條 身分登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ納付スルトキハ其目錄ヲ添附スヘシ

第十條 戸籍吏ノ職務ヲ代理スヘキ者カ登記及ヒ記載ヲ爲ストキハ代理ト記シ認印スヘシ

第十一條 身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者アルトキハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十二條 身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ニハ其人別又ハ事項ノ終リニ空行ヲ存セス附錄第五號書式ニ依リ認證文ヲ附記スヘシ

謄本又ハ抄本ハ其原本ト同一ノ用紙ヲ用ユヘシ

第十三條 官吏又ハ公吏カ其職務ヲ以テ身分登記簿、戸籍簿ノ閱覽又ハ身分登記、戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ求ムルトキハ手数料及ヒ郵送料ヲ要セス

第十四條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ハ附錄第六號書式ニ依ルヘシ

第十五條 戸籍吏カ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ニ對シ發スヘキ催告狀ハ附錄第七號書式ニ準據スヘシ

第十六條 戸籍吏ノ定メタル催告期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルトキ更ニ發スヘキ催告狀ハ附錄第八號書式ニ準據スヘシ

第三以下ノ催告狀ヲ發スヘキトキハ第八號書式ヲ準用スヘシ

第十七條 行政區畫ノ變更ニ依リ甲町村カ乙町村ニ合併シタルトキハ廢止セラレタル戸籍役場ニ存在スル身分登記簿、戸籍簿其他之ニ關スル書類ハ遲滞ナク合

戸籍法取扱手續

五〇〇

併シタル乙町村戸籍吏ニ引繼クヘシ
 甲町村ノ一部カ乙町村ニ合併シタルトキハ合併シタル区域内ニ本籍ヲ有スル者
 ノ戸籍ハ之ヲ分割シテ遲滞ナク合併シタル乙町村戸籍吏ニ引繼クヘシ但身分登
 記簿ハ引繼ヲ爲スノ限ニ在ラス
 前二項ノ場合ニ於テ引繼ヲ完了シタルトキハ其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ
 第十八條 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル疑義ハ戸籍吏ヨリ監督區裁判所ヲ經由シテ
 司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得
 第十九條 戸籍役場ニハ左ノ印章ヲ備フヘシ



(附録書式様式略ス)

●東京、京都、大阪市ニ於ケル戸籍吏

(明治三十一年七月十二日 司法省令第十二號)

東京市、京都市及ヒ大阪市ノ各區ニ於テハ區長ヲ以テ戸籍吏トス

●名古屋市ニ於ケル戸籍吏 (明治四十一年三月二十四日 司法省令第七號)

名古屋市ノ各區ニ於テハ明治四十一年四月一日ヨリ區長ヲ以テ戸籍吏トス

●戸籍法ニ依リ納付スヘキ手数料

(明治三十一年七月十二日 司法省令第十三號)

戸籍法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ノ金額左ノ通相定ム

第一條 身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付キ金拾錢ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ一

東京、京都、大阪市ニ於ケル戸籍吏 名古屋市ニ於ケ 五〇一
 戸籍吏 戸籍法ニ依リ納付スヘキ手数料

處刑ニ依リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於ケル報告ノ件 五〇二
件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手数料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以テ
之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

●處刑ニ依リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於ケル報告ノ

件 (明治三十一年八月十二日)
(司法省訓令第六號)

裁判所 檢事局 戶籍役場

既決犯罪事件ニ關シテハ明治二十五年ニ當省參刑第四一號ノ乙訓令ニ基キ檢事局
ヨリ犯人本籍地ノ戶籍吏ニ通知ヲ爲スヘキヲ以テ處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタルモ
ニ付テハ此通知ヲ以テ戶籍法第百六十六條但書ノ報告ト看做スヘシ

〔參照〕

司法省訓令參刑第四一號ノ乙

檢事局

自今重罪、輕罪ノ刑ノ言渡確定シタルトキハ刑ノ執行ヲ爲スヘキ裁判所檢事

局ハ郵便端書ニ別紙第一離形ニ做ヒ氏名其他ノ事項ヲ記載シ犯人本籍地管轄
市、區役所又ハ町、村役場ヘ通知セシム可シ若シ右管轄市、區役所又ハ町、村
役場ヨリ戶籍簿等ト相違ノ應回報アリタルトキハ調査ノ上其旨當省ヘ申報ス
可シ

明治十四年丁第三十三號達ニ從ヒ犯人本籍地ノ裁判所檢事ニ送致ス可キ既
決犯罪表ハ別紙第二離形ニ依リ之ヲ取扱フ可シ但同達文中「其旨ヲ犯人本
籍ノ地ノ戶長ニ通知シ」ノ十六字ヲ削除ス
右訓令ス(別紙離形略ス)

●年齡計算ニ關スル件 (明治三十五年十二月二日)
法律 第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齡計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第百四十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

年齡計算ニ關スル件

五〇三

御諱御名ノ文字熟字ノ外人民一般相名乗ルヲ許ス
國名並舊官名ヲ通稱ニ用フルヲ停ム

五〇四

●御諱御名ノ文字熟字ノ外人民一般相名乗ルヲ許ス

(明治六年三月二十八日)
太政官布告第百十八號

御歴代御諱並御名ノ文字自今人民一般相名乗候儀不及憚事
但熟字ノ儘相用候儀ハ不相成候事

●國名並舊官名ヲ通稱ニ用フルヲ停ム

(明治三年十一月十九日)
太政官布告

自今舊官人元諸大夫侍並元中大夫等位階總テ被廢候事
一國名並ニ舊官名ヲ以テ通稱ニ相用候儀被停候事

●通稱名乗兩様ヲ止メ一名トス

(明治五年五月十七日)
太政官布告第百四十九號

從來通稱名乗兩様相用來候置自今一名タルヘキ事

●氏名改稱出願方

(明治五年八月二十四日)
太政官布告第百三十五號

●華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並屋號共改稱不相成候事
但同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ改名可願出專(九年第五號布告ヲ以テ但書改正)

●華士族分家者ハ平民籍ニ編入

(明治七年七月十日)
太政官布告第七十三號

自今華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入候條此旨布告候事
但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事

●士族ノ稱

(明治二年六月二十五日)
行政官達抄錄

一二門以下平士ニ至ル迄總テ士族ト可稱事

●世襲ノ卒士族ニ編入伺出方

(明治五年正月二十九日)
太政官布告第二十九號

通稱名乗兩様ヲ止メ一名トス
華士族分家者ハ平民籍ニ編入 氏名改稱出願方 士族ノ稱

五〇五

世襲ノ卒士族ニ編入伺出方 郷士士族ニ編入伺出方
族稱廢絶ノ件 五〇六

各府縣貫屬卒ノ内従前番代ノ節抱替等ノ稱ヲ以テ其倅等へ降高ヲ給與シ自然世襲ノ姿ニ相成居候分ハ自今士族ニ可被 仰付候條調書ヲ以大藏省へ可伺出尤家祿ノ價ハ従前ノ通可相心得事
但新規一代限抱ノ輩ハ平民ニ復籍セシメ給祿ハ是迄ノ通可遣事

●郷士、士族ニ編入伺出方 (明治五年二月十四日)
(太政官布告第四十四號)

府縣へ

舊來郷士ト稱シ家筋由緒有之候者ハ士族ニ入籍可被 仰付候條取調書ヲ以大藏省へ可伺出事

●族稱廢絶ノ件 (明治十三年一月二十九日)
(太政官布告第三號)

士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳へ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サル

トキハ其族稱ハ廢絶候條ト可相心得此旨布告候事

●外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキ證明書ニ關スル件

(明治三十三年七月十六日)
(司法省令第二十五號)

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依リ其婚姻ノ障碍ト爲ルヘキ事項ノ存セサル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セシムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付キ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス
市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス

●身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程

外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキ證明書ニ關スル件 五〇七
身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程

(明治三十五年七月二十四日)
司法省令第二十一號

身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程左ノ通相定ム

身分登記戶籍及寄留ニ關スル保存規程

第一條 身分登記及ヒ戶籍ニ關スル戶籍役場ノ帳簿及ヒ書類ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ保存スヘシ

一 除籍簿

五十年

二 戶籍ニ關スル届書、許可書及ヒ附屬書類

十年

三 受附帳

三年

四 請求、告知、催告又ハ通知ニ關スル帳簿及ヒ書類

三年

第二條 戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ戶籍ヲ改製シタル場合ニ於テハ原戶籍ヲ五十年間保存スヘシ

第三條 出入寄留ニ關スル届書、除籍簿及ヒ附屬書類ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第四條 戶籍法第三十八條第一項ニ依リ戶籍役場ヨリ區裁判所ニ送付シタル書類

ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第五條 地方裁判所ニ保存スル戶籍ノ副本ハ其正本カ家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ抹消セラレ又ハ戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ改製セララルマテ之ヲ保存スヘシ

第六條 第一條、第三條及ヒ第四條ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算シ第二條ノ原戶籍ノ保存期間ハ改製終了ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第七條 區裁判所判事、戶籍吏又ハ市、區、町村長市、區、町村長ナキ地ニカ保於テハ其職務ヲ行フ吏員カ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作り地方裁判

所長ノ認可ヲ受ケヘシ但戶籍吏又ハ市、區、町村長カ認可ヲ請フトキハ監督區裁判所ヲ經由スヘシ

附則

第八條 後見人ニ關スル戶籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ハ當該年度ノ翌年ヨリ五十年間之ヲ保存スヘシ

第九條 登記目錄ハ當該年度ノ翌年ヨリ三十年間之ヲ保存スヘシ
身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程 五〇九

寄留ニ關スル規定

五一〇

第十條 區裁判所ニ於テ戶籍法施行ノ際郡役所等ヨリ引繼テ受ケタル戶籍ニ關スル屆書ハ戶籍法施行前ニ編製シタル戶籍カ家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ抹消セラレ又ハ戶籍法第二百二十一條第一項ニ依リ改製セラレルマテ之ヲ保存スヘシ

第十一條 第一條、第二條及ヒ第五條乃至第七條ノ規定ハ戶籍法施行前ノ除籍簿、原戶籍簿、戶籍ノ副本其他ノ帳簿及ヒ書類ニ之ヲ準用ス

寄留ニ關スル規定

(明治四年四月四日) 太政官布告

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙ノ通改正被 仰出候條管内普ク布告致シ可申事 戶籍検査編制ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候ヘ共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今日ヨリ處置致ス可ク尤三都府及各開港場ハ人民輻湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者ヘ鑑札渡方寄留表取調方等當六月二十九日ヨリ後ル可カラサル事 但不審ノ廉ハ民政部省ヘ可承合事

右之通被 仰出候事

第一則乃至第十五則(廢止)

第十六則

宿帳ハ七日目毎ニ驛遞ハ其驛出張驛遞掛ノ改テ受自餘ハ其戶長ヘ出シ改テ受クヘシ旅籠屋ニ限ラス都テ逗留三日以上ハ其戶長ニ届ケ人民輻湊スル三都府ノ如キハ其時々戶長ヨリ其驛ニ届出ヘシ九十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘシ旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ届ケ出ルハ勿論ナリ

但戶籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ検査スヘシ

第十七則乃至第三十三則及表式(廢止)

寄留ニ關スル届出方

(明治十九年九月二十八日) 内務省令第十九號

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條乃至第五條(廢止)

寄留ニ關スル届出方

五一

戸籍取扱手續(寄留)

五二二

- 第六條 他府縣又ハ他都市區他町村ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ本條中改正)
- 第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ
- 第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第九條 外國ニ渡航スルトキハ戸主又ハ本人ヨリ出發前ニ届出歸朝シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ追加)
- 第十條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●戸籍取扱手續(寄留)

(明治十九年十月十六日
內務省令第二十二號)

戸籍取扱手續左ノ通相定ム

戸籍取扱手續

第一條乃至第十九條(廢止)

寄留

第二十條 他府縣又ハ他都市區他町村ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戸籍ノ例ニ依ル(二十九年內務省令第十一號ヲ以テ本條中改正)

第二十一條 入寄留簿ハ左ノ三種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯ヲ爲ス者ト然ラサル者トチ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲サル者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨ケナシ(同上)

一 他府縣人入寄留簿

一 他都市區人入寄留簿

一 他町村人入寄留簿

第二十二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別葉ヲ爲スモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ

戸籍取扱手續(寄留)

五二三

寄留簿登記書式 寄留屆書類取扱方

五一四

第二十三條 他府縣又ハ他郡市區他町村へ寄留シタルノ屆書到達シタルトキハ出
寄留簿ニ列記スヘシ(同上)

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ屆出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ
畫スヘシ

●寄留簿登記書式

(明治十九年十月十六日
内務省訓令第二十號)

北海道廳 府縣

戶籍登記書式等別冊ノ通相定候條此式ヲ比準參酌シ其當ニ適セシムヘク尤戶籍簿
及副本調製ノ儀ハ管轄廳ニ於テ時期ヲ見計ヒ漸次着手セシムル儀ト心得ヘシ

(別冊)

入寄留簿登記書式第一第二(略ス)

出寄留簿書式第一第二(略ス)

●寄留屆書類取扱方

(明治十九年十月二十六日
内務省訓令第二十二號)

北海道廳 府縣

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル屆書ハ左ノ如ク取扱
フヘシ

- 一 寄留者ニ係ル屆書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留屆書ト合綴スヘシ但出產ニ
於テハ別ニ入寄留屆ヲ爲サシムルニ及ハス
 - 一 寄留者ニ非サル者ノ屆書ハ總テ便宜編綴スヘシ
- 同令第六條ノ入寄留屆書第七條ノ寄留者退去屆書及第八條ノ寄留者復歸屆書ハ類
集編綴スヘシ

●寄留屆寄留者復歸屆取扱方

(明治二十九年六月六日
内務省訓令第四號)

府縣

明治十九年九月 内務省令第十九號ニ依ル寄留屆寄留者復歸屆取扱方左ノ通定ム

- 一 入寄留ノ屆出アルトキハ市長東京部大阪ノ三市ニ在テハ區長以下同シ町村長ハ戶籍取扱手續第二十條ノ
手續了シタル後其屆書二年月日登記簿ノ旨ヲ記入シ其職印ヲ押捺シ直ニ之ヲ
- 寄留屆寄留者復歸屆取扱方

五一五

寄留届寄留者復歸届取扱方

五一六

- 寄留人本籍地ノ市町村長ニ送付スヘシ
- 一出寄留ノ届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十三條ノ手續了シタル後前項寄留地ヨリ發送ノ届書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セサルトキハ其出寄留届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ
- 一寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ手續了シタル後其届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

○拓殖務省訓令 明治二十九年七月三日 第一一〇號

北海道廳

明治十九年九月内務省令第十九號ニ依ル寄留届寄留者復歸届取扱方左ノ通相定ム

一入寄留ノ届出アルトキハ區戶長(郡長ニ於テ戶長事務ヲ兼掌スル地ニ在テハ郡長以下皆之ニ同シ)ハ戶籍取扱手續第二十条ノ手續了シタル後直ニ其旨ヲ寄留人本籍地ノ區戶長又ハ市長(東京、京都、大阪ノ以下皆之ニ同シ)町村長ニ通知スヘシ

- 一出寄留ノ届出アルトキハ區戶長ハ戶籍取扱手續第二十三條ノ手續了シタル後前項寄留地ヨリノ通知到達スヘキ日數ヲ經過スルモ猶到達セサルトキハ其出寄留届ノアリタル旨ヲ寄留地ノ區戶長又ハ市町村長ニ通知スヘシ
- 一前項出寄留届ニシテ寄留地ヲ轉シタルモノニ係ルトキハ出寄留簿ニ訂正ヲ加ヘタル後直ニ其旨ヲ元寄留地ノ區戶長又ハ市町村長ニ通知スヘシ
- 但現寄留地ヨリノ通知到達セサル場合ニ於ケル取扱ハ前項ニ準ス
- 一寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ區戶長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ手續了シタル後直ニ其旨ヲ元寄留地ノ區戶長又ハ市町村長ニ通知スヘシ

●臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關ス

ル届出方 (明治三十二年八月四日 臺灣總督府令第八十八號)

- 臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル届出方左ノ通相定ム
- 第一條 内地人ニシテ臺灣ニ居住スル者ハ居住ノ日ヨリ又住居ノ目的ニアラスト雖同一地區内ニ九十日以上滞留スル者ハ九十日ノ末日ヨリ十日内ニ左ノ事項ヲ臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル 五一七 届出方

臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル 五二八
届出方

記載シタル寄留届ヲ所轄警察官署ニ差出スヘシ

一 氏名

二 生年月日

三 寄留所

四 原籍

五 族稱職業

六 月主非月主ノ區別(非月主ニ就テハ月主トノ續柄)

七 家族携帶者ニアリテハ其家族ノ氏名、生年月日及月主トノ續柄

第二條 寄留者ニシテ左ニ記載シタル事項ニ該當シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 出產アリタルトキ

二 死者アリタルトキ

三 失踪者アリタルトキ

四 國籍喪失者アリタルトキ

五 氏名、生年月日及原籍ノ變更アリタルトキ

六 同一地區内ニ於テ寄留所ヲ變更シタルトキ

第三條 寄留者ニシテ原籍地ニ歸ルカ又ハ寄留所ヲ同一地區外ニ變更スルトキハ退去マテニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條 前三條ノ事項ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

第五條 前各條ノ届出ハ單身者ニアリテハ自身、家族携帶者ニアリテハ月主、月主ナキトキハ其中ノ主宰タル者ニ於テ爲スヘキモノトス但單身者ニシテ第二條ノ二號三號ニ該當スル場合ハ一月ヲ構ヘタル者ナルトキハ地主(借地ナルトキ)又ハ家主(借家ナルトキ)一月ヲ構ヘサル者ナルトキハ寄留所主宰者ニ於テ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一月ヲ構ヘサル寄留者ノ届書ニハ總テ寄留所主宰者ノ連署ヲ要ス

第六條 第一條第二條第三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關ス 五一九
届出方

皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ
出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル件

五二〇

第四條ニ違背シテ警察官吏ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者ハ利
法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

明治二十九年日令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ

出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル件

(明治四十三年四月六日)
法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ
皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 皇族ノ養子ト爲リタル皇族男子離縁ノ場合又ハ華族ニ嫁シタル皇族女子
離婚ノ場合ニ於テ直系尊屬ノ臣籍ニ入り創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入り

其ノ家ナキトキハ一家ヲ創立ス

第二條 前條、皇室親族令第三十二條若ハ第三十三條又ハ皇族身位令第三十四條
ノ規定ニ依リ直系尊屬ノ家ニ入り又ハ實家ニ復籍シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件
ヲ具シ入籍又ハ復籍ノ原因ヲ證スル書面ヲ添ヘテ之ヲ届出ツヘシ

一 入籍又ハ復籍シタル者ノ父母及其ノ者ト父母トノ續柄

二 入籍又ハ復籍ノ原因及年月日

戸籍吏前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ届出カ前條又ハ皇室親族令第三十
二條若ハ第三十三條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ身分登記簿中養子離縁ノ部又

ハ離婚ノ部ニ、皇族身位令第三十四條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ身分登記簿
中入籍、離籍及ヒ復籍拒絶ノ部ニ身分登記ヲ爲スヘシ

第三條 第一條、皇室親族令第三十三條又ハ皇族身位令第二十六條ノ規定ニ依リ
一家ヲ創立シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ一家創立ノ原因ヲ證スル書面ヲ
添ヘテ之ヲ届出ツヘシ

一 一家創立地

皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ
出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル件

五二〇ニ

皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ
出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル件

五二〇三

二 届出入ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ名、出生ノ年月日、職業及其ノ者ト
届出入トノ續柄

三 届出入及其ノ家ニ入ルヘキ者ノ父母並其ノ者ト父母トノ續柄

四 一家創立ノ原因及年月日

戸籍吏前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ届出カ第一條又ハ皇室親族令第三
十三條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ身分登記簿中入籍、離籍及ヒ復籍拒絶ノ部
ニ、皇族身位令第二十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ身分登記簿中分家及ヒ
廢絶家再興ノ部ニ身分登記ヲ爲スヘシ

第四條 養子縁組又ハ婚嫁ニ因リテ皇族ヨリ臣籍ニ入りタル者又ハ婚嫁ニ因リテ
臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者アル場合ニ於テハ其ノ入り又ハ出テタル家ノ戸
主ハ十日内ニ其ノ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍地又ハ原籍地、父母及其ノ者ト
父母トノ續柄並入籍又ハ除籍ノ原因及年月日ヲ具シテ之ヲ届出ツヘシ
戸籍吏前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ身分登記簿中養子縁組ノ部又ハ婚姻ノ部ニ
身分登記ヲ爲スヘシ

●種痘法第八條ニ依ル符號戸籍ニ記入方

(明治四十二年十二月二十四日
司法省令第二十二號)

種痘法第八條ニ依ル符號記入方左ノ通相定ム

第一條 戸籍吏カ種痘法第八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ戸籍ノ欄外氏名ノ
下ニ左ノ區別ニ從ヒ符號ヲ記入スヘシ

善感者ナルトキ



直徑三分

不善感者ナルトキ



高サ三分

第一期種痘施行前痘瘡ヲ
經過シタル者ナルトキ



方三分

第二條 戸籍吏ハ毎年十二月末日迄ニ前年中出生ノ本籍人ニシテ其ノ戸籍ニ前條
ノ符號ノ記入ナキモノノ本籍地及ヒ氏名ヲ市町村長ニ通知スヘシ

附則

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘法第八條ニ依ル符號戸籍ニ記入方

五二〇ノ四

本國...
...

...

●國籍法

(明治三十二年三月十六日)
法律第六十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一國籍法

第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ

第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

國籍法

國籍法

第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス

- 一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ
- 二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ
- 三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ
- 四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ
- 五 歸化ヲ爲シタルトキ

第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 本國法ニ依リテ未成年者タルコト
 - 二 外國人ノ妻ニ非サルコト
 - 三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
 - 四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト
- 第七條 外國人ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得
- 内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス

- 一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
 - 二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト
 - 三 品行端正ナルコト
 - 四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト
 - 五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト
- 第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得
- 一 父又ハ母ノ日本人タリシ者
 - 二 妻ノ日本人タリシ者
 - 三 日本ニ於テ生マレタル者
 - 四 引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者
- 前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生

國籍法

マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラス
第十條 外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラズ内務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス

歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十四條 日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セザリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ

父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十六條 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ妻又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス

一 國務大臣ト爲ルコト

二 樞密院ノ議長、副議長又ハ顧問官ト爲ルコト

三 宮内勅任官ト爲ルコト

四 特命全權公使ト爲ルコト

五 陸海軍ノ將官ト爲ルコト

六 大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト

七 帝國議會ノ議員ト爲ルコト

第十七條 前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化ヲ許可シタル者ニ付テハ國籍取得ノ時ヨリ五年ノ後其他ノ者ニ付テハ十年ノ後内務大臣勅裁ヲ經

テ之ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限り日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十二條 前條ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ通用セス但妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラヌ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラヌ其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ掲グタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十八條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

(明治三十二年三月二十九日) 法律第九十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
國籍喪失者ノ權利ニ關スル件 五二七

外人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

五二八

日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年内ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

● 外人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

(明治三十一年七月十一日)
法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治六年第百三號布告改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治六年第百三號布告左ノ通改正ス

第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ

要ス

第二條 内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フル

コトヲ得ス

一 引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スルコト

二 品行端正ナルコト

● 外人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手續

ニ關スル件

(明治三十二年九月十四日)
内務省令第五十一號

明治三十一年法律第二十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ハ本籍地又ハ寄留地地方廳ヲ經由シテ内務大臣ニ願出ツヘシ
本年法律第六十六號ニ依リ歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスル者ハ其ノ住所ノ地方廳ヲ經由シテ内務大臣ニ願出ツヘシ

外人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手續 五二九
ニ關スル件

● 供託法

(明治三十一年二月八日
法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託法

- 第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス
- 第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タヌコトヲ要ス
- 第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス
- 第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取り供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品

供託法

手保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得
倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保
管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サシム欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リ
テ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求ス
ル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル
者ニ之ヲ選付ス

第九條 供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依リテ供託カ錯誤ニ出テシコト又
ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第十條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ
無効トス

第十一條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給
付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ
非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ

第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦
之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止
ス

●供託物取扱規程

(明治三十二年三月十六日
大藏省令第六號)

供託物取扱規程左ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

供託物取扱規程

供託物取扱規程

五三四

- 第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス
- 第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢、有價證券ヲ謂フ
- 第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作リ之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ニ提出スヘシ
- 第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名
- 第二 供託セントスル金額
- 有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ金額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込済額ヲ記入スルコトヲ要ス
- 第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關)
- 第四 供託スヘキ法令ノ條項
- 第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置

(質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス) 及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名

- 第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受ケルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物
- 第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名
- 第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ
- 第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得
- 第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ

供託物取扱規程

五三五

供託物取扱規程

五三六

配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作りテ金庫
へ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セ
ラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證
ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ
保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ
依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ
作り利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當
金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請
求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ
前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受
ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依

リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第
四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由
ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫へ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其
ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證
書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書
前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シ
タル金錢、證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲グル者ノ證明書ヲ仍
ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作りタル供託
受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ
供託物取扱規程

五三七

正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ

書面

第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正

本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルト

キハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證

明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ

供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上

取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ

書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫

ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損

害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査

シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ

拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還

スヘシ

第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ

第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證

書ヲ受取人ニ交付スヘシ(三十四年大藏省令第十七號ヲ以テ本項中改正)

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領證ヲ證シ供託物ノ拂

渡ヲ請求スヘシ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受

取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡

供託物取扱規程

供託物取扱規程

五四〇

額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所へ返還スヘシ(同上)

第十五條 供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ(三十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ本條中改正)

營業ノ保證トシテ供託シタル現金ノ利息ハ毎年一月七月ノ二期ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ權利アル者ノ請求ニ依リ拂渡スヘシ

第十六條 前條第一項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスルモノハ第八號一書式ノ請求書又第二項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ同號二書式ノ請求書ヲ金庫へ提出スヘシ(同上ヲ以テ改正)

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行へ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店へ之ヲ同付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査

シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附則

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受ケルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ抵触スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式 (用紙寸法美濃判 紙數二枚以上三及フトキハ
契印スヘシ以下之ニ同シ)

供託書

(金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキハ供託者第三者ト記入スヘシ)

一金何圓也

供託物取扱規程

五四一

供託物取扱規程

五四二

又ハ
一何々公債證書額面何圓也(全額納入未済ノモノハ其ノトチ額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ)何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ

同

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

記號番號枚數記載方前ニ同シ

又ハ

同

一何々

前ニ同シ

供託ノ原因

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定

反對給付ノ目的物

官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名

右供託ス

右

年月日

何 某 團

何金庫宛

(受領書式)

第何號

右受領ス

何 金 庫 宛

年 月 日

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

受取人 何 某 團

何金庫宛

(内渡書式)

供託物取扱規程

五四三

供託物取扱規程

五四四

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ箇所へ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ)

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡済

何 金 庫 宛

第二號書式

供託物取扱規程

五四四

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ箇所へ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ)

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡済

何 金 庫 宛

第二號書式

請求書

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(所得税法第三條ノ稅額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルモノトス)

何々公債證書(又ハ何々銀行株券)(又ハ何會社株券)何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ分

前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某 團

何金庫宛

(受領ノ書式)

第何號

右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス

年 月 日

何 金 庫 宛

供託物取扱規程

五四五

供託物取扱規程

五四六

(奥書ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某 印

何金庫宛

(内渡ノ書式)

表書金額ノ内

一金何圓也

右金額何年何月何日内渡濟

(受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)

何 金 庫 印

第三號書式

利札領收證書

一利札券面額何圓也

何 枚

但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行若クハ何

會社債券額面何圓ニ對スル何年何月又ハ何期渡ノ分

右領收候也

府縣郡市町村番地

年 月 日

供託者 何 某 印

何金庫宛

第四號書式

供託物拂渡請求書

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ内ト肩書スヘシ)

又ハ

供託物取扱規程

五四七

供託物取扱規程

五四八

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

同記號番號枚數記載方
前二同シ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

同前二同シ

一何々々

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省

令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ

供託者ニ於テ取戻チナサントスル場合ハ
何々ノ理由ニ依リ云々ト記載スルコト

拂渡相

受度別紙證明書並ニ供託受領證相添請求候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人(又ハ供託者) 何 某 團

何金庫宛

第五號書式

領收證書

(供託受領證ニ葉毎ニ領收證) 書ヲ作成スルコトヲ要ス

何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

一何々公債證書額面何圓也

同記號番號枚數記載方
前二同シ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

同前二同シ

一何々々

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人 何 某 團

何金庫宛

供託物取扱規程

五四九

供託物取扱規程

五五〇

第六號書式（三十四年大藏省令第十七號ヲ以テ本書式中改正）

請求書

（供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス）

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

何年何月何日第何號受領證

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

内

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方
前ニ同シ

同 前ニ同シ

金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方
前ニ同シ

同 前ニ同シ

府縣郡市町村番地

受取人 何 某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス
依テ別紙供託受領證相添請求候也

年 月 日

官廳又ハ裁判所名

官 氏 名 印

何金庫宛

供託物取扱規程

五五一

第七號書式(同上)

拂渡證書

府縣都市町村番地

供託者 何 某

何年何月何日第何號受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

右金額(又ハ有價證券)府縣都市町村番地何某へ拂渡スコトヲ要ス

年月日

官廳又ハ裁判所名

官 氏 名 印

何金庫宛

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年月日

府縣都市町村番地

受取人 何 某 印

何金庫宛

第八號書式(三十三年大藏省令第二十八號ヲ以テ本書式中改正)

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也

供託物取扱規程

供託物取扱規程

五五四

年月日

受取人

何

某團

何金庫宛

府縣郡市町村番地

(利息記入式)

一金何圓也

利子額(利率年何分何厘)

内

金何圓也

利付額何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月マテ

金何圓也

何々

右之通ニ候也

年月日

何金庫宛

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年月日

受取人

何

某團

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

第八號二(三十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ追加)

營業保證金ニ係ル供託金利息請求書

何年何月何日第何號供託金何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月ニ至ル利息仕拂相成度請求候也

府縣郡市町村番地

年月日

受取人

何

某團

何金庫宛

(利息記入證明式)

一金何圓也

利子額(利率年何分何厘)

内

金何圓也

自何年何月何箇月分
至何年何月何箇月分

右ノ通ニ候也

年月日

何金庫宛

供託物取扱規程

五五五

供託金ノ利息割合 税関ノ取扱ニ係ル供託金金庫移換及利子仕拂手續

五五六

(現金領收ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年月日

受取人

何

某

印

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

●供託金ノ利息割合

(明治三十二年三月十七日)
(大藏省告示第九號)

供託法第三條ニ於ケル供託金ノ利息ハ一箇年三步六厘ト定ム

●税関ノ取扱ニ係ル供託金金庫移換及利子仕拂手續

(明治三十六年三月十七日)
(大藏省令第八號)

税関ノ取扱ニ係ル供託金金庫移換及利子仕拂手續左ノ通相定ム

第一條 税関ノ取扱ニ關スル法令ノ規定ニ依リ甲税関ニ對スル保證又ハ擔保トシ

テ甲地金庫ニ供託シタル現金ヲ他日其原因ノ消滅シタル場合ニ於テ乙税関ノ證

明ニ依リ乙地金庫ヨリ拂戻ヲ受ケルコトヲ要スル供託者ハ最初其供託受領證ヲ

甲税関へ提出ノ際其拂戻シ金庫ヲ指定シテ其旨ヲ申請シ該税関ノ承認ヲ受ケ

シ

前項ノ承認ヲ得タル供託者ニ於テ其拂戻ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ供託物取扱規

程ノ請求書ヲ作り之ニ乙税関ノ證明ヲ付シタル供託受領證ヲ添付シ指定ノ金庫

へ差出シ現金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

甲税関ニ於テ第一項ノ申請ヲ承認シタルトキハ供託金金庫換請求書ヲ作り之ニ

供託受領證ノ寫ヲ添へ甲地金庫へ送付シ同時ニ其供託受領證ニ其事由ヲ記載シ

タル書面ヲ添へ乙税関へ移送スヘシ

第二條 甲地金庫ニ於テ前條第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ供託金金

庫換通知書ヲ作り之ニ甲税関ヨリ送付セラレタル供託受領證ノ寫ヲ添へ乙地金

庫へ送付シ同金庫ノ報告ヲ得テ其供託金ヲ拂出シ振換回送受入ノ記帳ヲ爲スヘ

シ

第三條 乙地金庫ニ於テ前條供託金金庫換ニ關スル書類ヲ受ケタルトキハ其書類

税関ノ取扱ニ係ル供託金金庫移換及利子仕拂手續 五五七

金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

五五八

ニ依リ供託金ノ受入及振換回送拂出ノ記帳ヲ爲シ其旨甲地金庫ヘ報告シ置キ他
日第一條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託物取扱規程ノ手續ニ依リ其現金ヲ
交付スヘシ

第四條 第一條ノ供託金ノ利息ヲ受取ラントスルトキハ供託物取扱規程ニ定メ
ル請求書ヲ第一條第二項ノ請求書ト共ニ其金庫ヘ差出スヘシ
前項ノ請求ヲ受ケタル金庫ハ其供託受領證ニ依リ利子金額ヲ計算シテ式ノ如ク
證明シ之ヲ其地ノ日本銀行本支店若クハ代理店ニ回付シ日本銀行本支店若クハ
代理店ハ之ヲ調査シ受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ

附則

第五條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

(明治三十三年八月三日
司法省告示第三十九號)

供託法第六條ニ依リ供託書式左ノ通相定
(用紙寸法適宜)

(丙ハ朱)

供託書	「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及ヒ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」
評價金	
保管料	
供託ノ原因	「本欄ニハ供託ノ事由及ヒ供託スヘキ法令ノ條項等ヲ記載ス」
供託物ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所	
反對給付ノ目的物	
備考	

右供託候也

明治 年 月 日

「府縣郡市町村番地」
「倉庫營業者氏名(又ハ商號)宛」

「府縣郡市町村番地」
供託者 氏 名 〇

金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

五五九

●同上物品ヲ保管スヘキ指定倉庫營業者

(明治四十一年八月一日現在)

- 東京府東京市深川區小松町七番地 東京倉庫株式會社
- 東京府東京市深川區黑江町三十一番地 商業倉庫株式會社
- 東京府南多摩郡八王子町横山百三十二番地 八王子米穀株式會社
- 神奈川縣橫濱市綠町四番地 中央倉庫株式會社
- 千葉縣海上郡銚子町一一番地 岡本衛平
- 茨城縣猿島郡古河町大字古河千五百四十一番地 古河倉庫株式會社
- 茨城縣新治郡高濱町大字高濱七百九十五番地 高濱倉庫合資會社
- 栃木縣宇都宮市川向町六十七番地 下野倉庫株式會社
- 群馬縣前橋市田中町乙七十七番地 上毛倉庫株式會社
- 群馬縣高崎市赤坂村字大信寺裏六百五十二番地 高崎倉庫株式會社
- 山梨縣甲府市飯沼村百石町四百八十五番地 若尾民造

- 山梨縣南都留郡谷村町三百十四番地 谷村委託株式會社
- 長野縣東筑摩郡松本町百九十番地 松本倉庫株式會社
- 長野縣諏訪郡上諏訪町四百八番地 上諏訪倉庫株式會社
- 長野縣小縣郡上田町四百九十三番地 上田倉庫株式會社
- 新潟縣新潟市船場町二丁目第三千四百二十三番地 新潟倉庫株式會社
- 新潟縣刈羽郡柏崎町第千四百六十五番戶 柏崎倉庫株式會社
- 新潟縣中頸城郡直江津町大字直江津 株式會社北越倉庫銀行
- 新潟縣佐渡郡二見村大字二見百二十番戶 三家合名會社
- 京都市下京區新町通七條下ル東鹽小路町九十六番戶 合名會社村井銀行支店
- 大阪府大阪市北區中ノ島五町目九十一番屋敷 東京倉庫株式會社大阪支店
- 大阪府大阪市北區中ノ島三丁目 大阪倉庫株式會社
- 大阪府堺市宿院町西四丁十四番地 堺倉庫株式會社
- 兵庫縣神戸市兵庫島上町七十八番屋敷 兵庫倉庫株式會社神戸支店
- 兵庫縣神戸市相生町一丁目十番地 東京倉庫株式會社神戸支店

同上物品ヲ保管スヘキ指定倉庫營業者

五六一

同上物品ヲ保管スヘキ指定倉庫營業者

五六二

神戶市兵庫南逆瀬川町二丁目四十七番地

井上保次郎

滋賀縣大津市坂本町第五十番屋敷

近江倉庫株式會社

和歌山縣和歌山市十二番町九番地

和歌山倉庫株式會社

愛知縣名古屋市泥江町二丁目四番地

名古屋倉庫株式會社

愛知縣名古屋市天王崎町四番地

東海倉庫株式會社

愛知縣知多郡半田町千四十八番戶

半田倉庫合資會社

三重縣津市大字船頭町八十三番屋敷

津倉庫株式會社

三重縣四日市市大字北納屋町

四日市倉庫株式會社

三重縣宇治山田市大字河崎町百二十四番屋敷

村松食庫合名會社

岐阜縣岐阜市上加納四百二十一番戶

美濃倉庫株式會社

福井縣敦賀郡敦賀町泉

敦賀倉庫株式會社

石川縣金澤市折邊町七十八番地

金澤倉庫株式會社

石川縣能美郡小松町字三日市町十九番地

小松倉庫合資會社

石川縣鹿島郡七尾町字生駒町二十八番地

笹谷彦三郎

富山縣富山市今木町六十番地

井上彌七

富山縣高岡市小馬出町八十四番地

吉野治平

富山縣射水郡伏木町大字古國府町八十七番地

伏木倉庫株式會社

島根縣松江市大字松江分五百四十一番地

松江倉庫株式會社

鳥取縣鳥取市殿片原町七十七番地

鳥取倉庫株式會社

宮城縣仙臺市東五番丁二番地

合資會社宮城倉庫

宮城縣宮城郡鹽釜町四百十六番地

鹽釜倉庫株式會社

福島縣信夫郡福島字榮町三十七番地

福島誠豐株式會社

福島縣西白河郡白河町字中町六十六番地

白河倉庫合資會社

山形縣山形市香澄町字大寶寺

山形運輸株式會社

巖手縣膽澤郡水澤町

膽江倉庫株式會社

秋田縣平鹿郡橫手町榮通町九番地

前田合名倉庫會社

青森縣青森市新濱町

株式會社青森倉庫

青森縣弘前市大字北五ヶ町十九番ノ一號

株式會社弘前倉庫

同上物品ヲ保管スヘキ指定倉庫營業者

五六三

指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件

五六四

北海道函館區辨天町一番地

柳田藤吉

北海道檜山郡江差姥神町四十五番地

永瀧松太郎

北海道札幌區北四條西二丁目一番地

札幌倉庫株式會社

●指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件

(明治三十三年八月廿日
司法省訓令第二號)

地方裁判所長

本年司法省告示第四十號ヲ以テ倉庫營業者ヲ指定シタルニ付テハ各地方裁判所長
ハ其管内ニ營業所ヲ有スル指定倉庫營業者ヲシテ定款其他營業ニ關スル規則ヲ提
出セシメ當省ニ差出スヘシ
定款、營業ニ關スル規則、營業所若クハ代表者ノ變更、破産、解散、營業ノ廢止等
アリタルトキ又ハ供託物ヲ保管セシムルニ不適當ナリト認ムヘキ事由アレトキハ
其都度速ニ當省ニ報告スヘシ

指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件

五六四

北海道函館區辨天町一番地

柳田藤吉

北海道檜山郡江差姥神町四十五番地

永瀧松太郎

北海道札幌區北四條西二丁目一番地

札幌倉庫株式會社

●指定倉庫營業者定款、規則提出方等ノ件

(明治三十三年八月七日
司法省訓令第二號)

地方裁判所長

本年司法省告示第四十號ヲ以テ倉庫營業者ヲ指定シタルニ付テハ各地方裁判所長
ハ其管内ニ營業所ヲ有スル指定倉庫營業者ヲシテ定款其他營業ニ關スル規則ヲ提
出セシメ當省ニ差出スヘシ
定款、營業ニ關スル規則、營業所若クハ代表者ノ變更、破産、解散、營業ノ廢止等
アリタルトキ又ハ供託物ヲ保管セシムルニ不適當ナリト認ムヘキ事由アレトキハ
其都度速ニ當省ニ報告スヘシ

商

法